

47年に日光で冬季国体

初のオリンピック聖火ともす

八月十五、十六日の二日間にわたり、金谷ホテルで開かれた日本水連の定例理事会で、四十七年の第二十七回冬季国体スケート部門を日光で開催することが決定されました。

同理事会は、竹田恒徳会長、横川知事、星野市長ら約二十人

が出席して開かれ、四十七年の開催予定地であった岩手県が、同年の夏、秋の国体開催地でもあるため、冬季も開催することが困難となったため、これまでの実績のある日光に決定したものです。

本市では昭和二十六年、三十

四年、四十二年の三度、冬季国体を開催していますが、今回は冬季札幌オリンピックの開催年に当たるため、開催期日も同年一月六日から十日までの五日間と早目になる予定です。

日光国体のハイライトは、国体史上初のオリンピック聖火がともされることで、四十七年元旦に東京に到着するオリンピック

ク聖火は、国体開会式の六日にメインスタジアムの日光スケートセンターの聖火台に点火され、競技期間中、赤々と燃え続け、大会を盛り上げます。

栃木県と日光市では、この大会を受諾するとともに、開催地の名に恥じない立派な国体にするため、施設の充実に力を注ぐことになりました。



【写真は、42年に日光で行なわれた国体スピードスケート競技】

交通安全まず家庭から

交通安全母の会を結成

行なわれ、会長に福田のぶ(市婦人連絡協議会長)さんを選出したのち、各役員や今後の運動方針などを定めました。

会の構成メンバーは、日光市婦人連絡協議会(会員約二、五〇〇名)が母体となっていますが、各種婦人団体や女子青年団をはじめ、幼稚園や学校のPTAなど、将来は市内の全婦人を会員として、交通安全運動を各方面から強力に推し進めていくものです。

この日定められた事業は、学校交通安全教育への協力と推進交通安全運動への積極的参加、酒のみ運転の追放など六項目で特に母親の立場から、子どもに対する正しい交通徳の指導に大きな期待がもたれています。

交通安全まず家庭から

児童を交通事故から守ろうと清滝地区社会福祉協議会(会長 松山重雄氏)では、このほど清滝小学校に「交通安全ランドセルカバー」六百枚を寄贈しました。

このカバーは、黄色のビニール製の袋で、ランドセルのカバーの部分差し込み、通学中の児童が、遠くからでも目につくようにしようというもので、価格は一枚六十円。

清滝小学校では、さっそく二学期から全児童に配り、安全通

ますます激しくなる交通戦争に打ち勝とうと、「日光市交通安全母の会」が結成され、八月二十七日午後一時三十分から市役所大会議室に代表者や関係者多数が参席して、その結成式が

ランドセルを背負って通学する清滝小の児童



【写真は、安全カバーをつけた学に役立っています。】

今月の納税

固定資産税 第3期
都市計画税

〈9月30日限り〉

